

政務活動費成果報告書

令和6年2月19日

犬山市議会

議長 柴田 浩行 様

議員名 光清 毅

下記のとおり、政務活動費により行政視察の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	令和6年2月14日(水)・15日(木) (1泊2日)
(2) 場 所	・香川県高松市役所及び愛媛県四国中央市
(3) 形 態	会派(創犬会)
(4) 内 容	別紙の通り
(5) 成果・提言	<p>○現在、全国の自治体においてDXが進められており、先進地である高松市を視察することができ、以下の点を提言します。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 既存のデータを有効的に利活用することにより、市民の利便性が向上する新たな展開を考えてもらいたい。2. 現在の申請手続きの中で、オンライン申請に変更できるものについては、積極的に進めてもらいたい。3. 庁内のDX推進体制の確立を早急に進めてもらいたい。 <p>○四国中央市におけるデマンドタクシーを参考に、以下の点を提言します。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 犬山市においては、公共交通の中心はコミュニティバスであるので、現状での利用者のニーズ(通院・買い物等)に配慮してできることから利便性の向上に努めてもらいたい。2. 今後は、鉄道、路線バス、民間タクシー等のさらなる連携により、高齢者・交通弱者に対する日常的な足の確保を検討してもらいたい。



○視察成果

◇香川県高松市（面積：375.67km² 人口：419,626人）

スマートシティたかまつについて

○高松市では、平成31年に「スマートシティたかまつ推進プラン」を策定し、「スマートシティたかまつ」の実現に向けた取組を推進しており、令和4年に第2ステージの実現を目指して新プランを策定している。

○スマートシティたかまつ推進プランでは、市民全員がデジタル技術を活用でき、社会全体のDXを進めることで、誰もが、どこからでも利便性を享受できる「スマートシティたかまつ」の実現を目指すことを基本方針としている。

○基本方針を踏まえ、以下の施策体系に沿って展開を図っている。

（1）持続可能で魅力的なまちづくり

紹介例：防災分野において、センサーから取得した水位等のリアルデータと、地図情報等を組み合わせたデータ利活用を行うことで、早期の安全対策の実施、災害対応の効率化に取り組んでいる。

観光分野において、レンタルサイクルの利用動態から特に外国人観光客の動態を分析し、施策展開に活用している。

（2）市民ニーズに応じた行政サービスの効率的な提供

紹介例：令和5年3月から市民向けオンライン申請手続きを集約した「たかまつデジタル市役所」の運用を開始している。

新規事業をオンライン化することにより、日処理の平準化や事務作業の軽減といった市民と職員の双方にメリットがあった。

（3）多様な主体の出会いと協働を促進する仕組みづくり

（4）誰もがデジタル社会の恩恵を享受できる環境整備

紹介例：デジタルデバイド対策事業

地域コミュニティ協議会が、地域の実情に応じてICTを活用した取組や、デジタルデバイド解消に向けた各種の取組を実施できる体制を構築し、円滑な活動をサポートしている。取組例：スマホ教室

○視察成果

◇愛媛県四国中央市（面積：421.24km² 人口：82,080人）

デマンドタクシーについて

- 四国中央市では、交通不便地域を解消するとともに、交通弱者の通院や買い物の移動手段を確保し、生活利便性の向上並びに地域活性化に資するため、平成22年4月からデマンドタクシーを導入している。
- 利用対象者は、市内に在住者で一人で乗り降りできる人。事前に利用登録が必要で、利用にあたっては、電話により予約する。
- 運行は、月曜日から金曜日までで、市内4エリアにおいて1日1～7便となっている。
- 利用料金は、1回乗車ごとに大人（中学生以上）が400円。小人、障がい者手帳のある人等は200円となっている。未就学児は無料。
- 利用状況は、平成23年度の26,916人をピークに年々減少しており、令和4年度には新型コロナ感染流行の影響もあり16,397人となっている。1日あたり67.5人。
運行収支は、令和4年度は、運行経費5,438万円に対して、料金収入533万円、行政負担が4,905万円（国補助金962万円）となっている。
- 各エリアの移動状況はエリア内移動率が約99%となっており、通院や買物に要する移動が主で1時間内で完結している。
- 利用予約業務は、宇摩旅客自動車協同組合に委託して予約センターで行っており、デマンドタクシーの運行業務は、市内タクシー事業者と宇摩旅客自動車協同組合に委託している。
- その他の取り組みとして、①運転免許自主返納者にお試しチケットを贈呈 ②市のイベントでの出前講座を実施 ③利用案内ちらしやのぼり旗など活用して情報発信を実施して利用者拡大に努めている。
- 主な成果としては、①地域の隅々までカバーする運行により、生活圏内域での通院や買物に役立っている。 ②ドア・ツー・ドアでの移動ができ、外出機会の創出に効果がある。③1時間以内の運行で目的地に到着するため、予約がしやすい。等があり、一方、今後の課題としては、①Web予約の導入による利便性の向上 ②幅広い年齢層の利用促進 等がある。